

弁護士

角田 龍平 さん

SUMIDA, Ryuhei

高校生時代に漫才師として漫才コンクールで大賞を受賞し、弁護士1年目からニッポン放送『オールナイトニッポンR』のパーソナリティを務め、現在もKBS京都ラジオ『角田龍平の蛤御門のヘン』、ABCラジオ『ウラのウラまで浦川です』などラジオを中心にメディアで活躍する角田龍平さん（京都弁護士会）にお話をうかがいました。



高校生漫才師から弁護士に

辻村 角田さんは、高校生漫才師として早くから頭角を現されましたが、そもそもなぜ漫才師を目指したのですか。

角田 京都の洛星高校という中高一貫制の男子校で悶々とした学生生活を送る中で、深夜ラジオが心の拠り所でした。自然と自分も「深夜ラジオで喋る人になりたい」と思うようになりました。当時、深夜ラジオのパーソナリティになるには、芸人か放送作家になるしかなかった。ちょうどその頃、関西テレビ『紳助の人間マングラ』で「オール巨人の漫才道場」という巨人師匠が素人に漫才を教えてコンクールに挑戦する企画が始まったんです。渡りに船とばかりに、オーディションに応募したら合格しました。

辻村 洛星高校での成績も良かったんでしょう？

角田 ラジオや映画やプロレスの自習に忙しく、勉強している場合じゃなかった。学校が進学校だったので、番組で「京都大学を目指す高校生漫才師」という設定にされましたが、成績は260人中240位。およそ京大に合格できる成績ではありませんでした。テレビのリアリティショーを信用しちゃいけない。

辻村 1994年に今宮子供えびすマンザイ新人コンクールで福笑い大賞を受賞していますよね。このときは海原やすよ・ともこを押さえての大賞ですから値打ちありますね。

角田 やすよ・ともこさんだけでなく、コンビ時代のケンドー・コバヤシさん、陣内智則さん、小藪千豊さんらも出場していたと付言させてください。

辻村 （苦笑）歴代の福笑い大賞受賞者にはダウNTOWNもいますが…

角田 （遮って）ダウNTOWNは高校を卒業して吉本の養成所在学中に優勝しましたが、僕と相方は高校在学中だったので、最年少記録を更新し…

辻村 また始まった…

角田 まあ実際は、「高校生にしては上手に漫才しよるな」と下駄を履かせてもらっただけなんですけどね。

辻村 大学は漫才の一芸入試で合格した立命館大学法学部に進学されましたね。

角田 大学にはほとんど行かずに、巨人師匠の弟子をしていました。

松尾 漫才師の弟子って、どんなことをするんですか？

角田 靴を磨いたり、衣装を準備したり、おしぼりを出したり、師匠の身の回りの世話ですね。でも、巨人

師匠は本来ひとりで全部できる人なので、正直足手まといだったと思いますよ。あと、読売テレビで当時やっていた『紳助のサルでもわかるニュース』という紳助師匠が司会のクイズ番組があったんですが、巨人師匠が出演する時、テーマに合わせて予想問題のレジュメを作ったりしていましたね。汚職事件がテーマの回で、巨人師匠が「造船疑獄事件」とか「昭和電工事件」とか全部答えて優勝したことがあったんですが、全部僕のレジュメに載っていた。

辻村 (笑) 文科系の弟子だったんですね。

角田 弟子に付いていた時、ちょうどオール阪神・巨人がデビュー20周年の年で、巨人師匠に「ネタを書いてみろ」と言われて、書いたネタの一部を20周年記念公演で採用してもらった時は嬉しかったなあ。

松尾 有能なお弟子さんだったんですね。

角田 全然です。クリーニングから

戻ってきたボタンに銀紙が付いたままのスーツを巨人師匠に着せて、そのまま師匠がNHK『バラエティー生活笑百科』に出演したことがありました。後から気づいた師匠にえらい怒られましたが、僕は「珍しいデザインのボタンだな」と思っていたんですよね。

辻村 たしか角田さんはペーパードライバーだから車の運転もできないですよね？

角田 当時は、免許すら持っていなかった。普通は弟子が師匠の車の運転をするものですが、一緒に付いていた兄弟子も免許を持っていなかった。だから、巨人一門は師匠がハンドルを握り、兄弟子が助手席に座り、僕が後部座席に陣取るという歪なフォーメーションで移動していました。後部座席で寝て、よく怒られましたわ。

辻村 師匠みたいな弟子。

角田 コロナ禍の少し前、オール阪神・巨人が阿波踊りの営業で徳島へ

行く時、観光目的の僕と妻も巨人師匠の車に乗せてもらって徳島まで同行したんですが、その時も師匠の『あんじょうやりや』が車内でかかっているのに寝てしまい、ガクンとなって目を覚まし、ヘッドバンギングしてのってるフリしてやり過ごしました。

辻村 ばれてるわ。ヘッドバンギングをするような曲やないから、『あんじょうやりや』は。でも、いまだにいい師弟関係が続いているんですね。

角田 生涯の師匠ですね。吉本新喜劇の岡八郎師匠の弟子だった巨人師匠は、八郎師匠の車を運転して仕事へ行くとき、前日までに50ccのスーパーカブに乗って下見を欠かさない完璧な弟子でした。自分とは正反対のポンコツの弟子を取るのとは、「漫才で頑張れば良いことがある」ということを伝えたかったんだと思います。

松尾 一昨年まで審査員を務められた『M-1グランプリ』でも、技術



2011年 角田さんの事務所開きに駆けつけたオール巨人さん

的な評価はもとより、後輩への愛のある寸評が印象に残っています。

角田 巨人師匠は現役で頑張る漫才師だけでなく、僕のように漫才で夢破れた弟子たちにも優しい。僕が2011年に西天満で独立したときも事務所開きに駆けつけてくれました。一緒に付いていた兄弟子は柔道整復師をしているんですが、巨人師匠は兄弟子のクリニックのホームページにも登場して宣伝に一役買ってくれます。

松尾 角田さんが漫才を辞めた理由は？

角田 巨人師匠の付き人をしながら、紳助師匠の番組の前説をしたりしていましたが、舞台袖でオール阪神・巨人の漫才を見て、スタジオで紳助師匠のトークを見ていると、憲法22条が保障する職業選択の自由の埒外にある、職業から選択された「ナチュラルボーン芸人」がいることに気付いて怖気づいたんです。

松尾 漫才師から弁護士に志望を変更されたきっかけは？

角田 弁護士になりたい明確な動機はありませんでした。漫才を辞める口実だったんです。巨人師匠や紳助師匠に目をかけてもらっていたので、「怖くなったので辞めます」とは言えない状況でした。「弁護士になります」という半ばボケのような理由なら笑ってくれるのではないかという思いがありました。一方で、当時、阪神淡路大震災や地下鉄サリン事件が起こり、社会問題への関心が僕の中で強くなっていました。ところが、なんばグランド花月では漫才師がツカミで「なんばグランドサティアンへようこそ」とボケる程度

で、漫才では社会に対峙できないという思いもありました……結局、弁護士になって15年、社会に対峙するような仕事は何ひとつしていない体たらくなんです。

辻村 司法試験では苦労されましたか？

角田 知ってるくせに（笑）。8回落ちて、9回目に合格しました。

辻村 司法試験の受験時代、どうやってモチベーションを維持していましたか？

角田 北野誠さんと竹内義和さんがABCラジオで日曜深夜にやっていた『誠のサイキック青年団』という番組を中学時代からずっと聴いていたんですが、毎年秋にその番組のイベントが京都の円山公園音楽堂でありまして。論文試験の不合格発表直後に、「もう一年か」とため息混じりに重い足取りで円山公園の坂を上ったもんです。そんな憂鬱をかき消してくれたのが、風光明媚な秋の東山に響き合う誠さんと竹内さんの邪推と妄想でした。笑い転げて帰り道、「もう一年頑張ろう」と軽やかに円山公園の坂を駆け下りるのが、司法浪人時代の秋の風物詩でした。

松尾 司法試験を受験している間、漫才を辞めたことを後悔しませんでしたか？

角田 司法試験に落ち続けていた頃、コンクールでしのぎを削った芸人が次々と売れっ子になっていくのを見ていると、正直後悔しました。でも、2005年の年末に、M-1で優勝したブラックマヨネーズの漫才を見て、「辞めて良かった」と心底思いました。漫才師時代、最後の

舞台上でブラマヨのおふたりと一緒に。吉田さんと小杉さんが、まだ別々にコンビを組んでいた時代です。それから10年が経ち、ブラマヨはM-1で他を寄せ付けない圧倒的な漫才をしていた。漫才を続けていても、絶対あの領域には到達できなかった。逃げて良かったと安堵しましたね。

辻村 その翌年、2006年に司法試験に合格されました。

角田 同じ年に、片面的にライバル視していた新日本プロレスの棚橋弘至選手がIWGPヘビー級チャンピオンになり、負けていられないと奮起しました。

辻村 棚橋さんとは、立命館大学法学部の同級生なんですよ。

角田 大学に入学して間もない語学の授業で、先生から「隣の人と英語で会話しなさい」と言われて戸惑っていると、隣の席の朴訥そうな青年がはにかみながら「My hobby is pro-wrestling」と話しかけてきました。バカな大学生がいたもんです。「Me Too!」と即答した僕も相当バカですが。それが棚橋君との出会いでした。

辻村 棚橋さんはやがてhobbyがworkになり、新日本プロレスのエースになりますね。

角田 ゼロ年代から、PRIDEなどの総合格闘技が勃興し、プロレスは斜陽産業になりかけていました。棚橋君は心ないブーイングを浴びながら、プロレスラーとして孤軍奮闘していた。リングの上で戦い続ける友達を見ていると、所詮ペーパーテストでしかない司法試験を諦めるわけにはいきませんでした。

ラジオパーソナリティとして

辻村 2008年、弁護士登録後すぐにニッポン放送の「オールナイトニッポンパーソナリティオーディション」に合格して、ラジオパーソナリティの仕事を開始されます。

角田 深夜ラジオのパーソナリティになりたくて芸人を目指して挫折したのに、司法試験に逃避したら、結果的にラジオで喋れるようになった。しかも、深夜ラジオの象徴とも言える『オールナイトニッポン』で。夢破れて叶う夢があるんですね。

辻村 オーディションの募集要綱には30歳以下という要件があったけど31歳で合格されたんですね。

角田 1次オーディションは、1分間のフリートークの音源と書類の審査でした。エントリーシートには、「30歳以下という年齢制限が課せられているため、現在31歳の当職は応募資格がないように思える。しかし、オーディションの趣旨は、世に知られていない才能を発掘することであり、年齢制限は一応の目安に過ぎない。この点、無名の新人弁護士たる当職はオーディションの趣旨が妥当し、年齢制限を1歳上回るだけであり、応募資格が認められる。」と民法94条2項類推適用の論証パターンみたいなことを書いたら、詭弁が功を奏しました。

辻村 2009年1月から始まった『角田龍平のオールナイトニッポンR』は、当初3か月で終わる予定だったが、1年間放送されました。

角田 人生には深夜ラジオが聴きなくなる季節があると思うんです。僕

は、その季節が人よりも長かった。中高一貫制の男子校に通っていた10代と、司法試験に落ち続けた20代。青春の蹉跎と深夜ラジオの親和性は高いんですよ。その頃の自分に向けて喋っていたら、リスナーが支持してくれました。

辻村 『オールナイトニッポンR』のパーソナリティをやっていて良かったこととか、思い出みたいなものがあればお聞きしたいんですが。

角田 初回にタイトルコールをした後に『オールナイトニッポン』のテーマ曲『ビタースイートサンバ』が流れた瞬間、鳥肌が立ちましたね。スペシャルウィークで棚橋君にゲストに来てもらい、大学の卒業以来10年ぶりに再会できた時は、10年の労苦が全て報われた気がしました。

辻村 お父さんが2ちゃんねるの番組のスレッドで暗躍するという事件もありました。

角田 僕を誉め殺しする内容の書き込みを連日連夜繰り返す人がいて、その人は書き込む時にやたらスペースを多用するので、スレッドで「スペース」という蔑称で呼ばれるようになっていた。誉め殺しなんで、発信者情報開示請求もできない。それでモヤモヤしていたある日、普段メールを寄越したことのない父からメールがきて。その文面を見ると、あろうことかスペースだらけだった。そこで、膨大な書き込みを検証して「スペースは父である」という犯人性を番組で証明したら、反響を呼び、リスナーの読売新聞の記者が夕刊2面おち抜きで番組を特集してくれたんです。

辻村 僕もたまに聴き手として出演しているKBS京都ラジオ『角田龍平の蛤御門のヘン』も、2017年10月の放送から6年目に突入しました。

角田 『蛤御門のヘン』は、ナイターオフの半年だけ放送する予定で始まりましたが、スポンサーが付いてくれて生き延びている。KBS京都が京都御苑の蛤御門の前にあること、ヘンな人や事件を弁護するというコンセプトから、番組名も自分で考えました。依頼もされていないのに世間で叩かれている人を勝手に弁護する「勝手に弁護団」などのコーナーがあり、リーガルバラエティと銘打っていますが、要は弁護士の雑談ですな。

辻村 2019年には、『蛤御門のヘン』の中で、伝説のラジオ『サイキック青年団』を10年ぶりに復活させました。

角田 『サイキック青年団』は、番組やイベントでの発言が問題になり、2009年に強制終了させられました。それ以降、パーソナリティの北野誠さんと竹内義和さんは袂を分かち、共演することがなくなっていた。終わり方が終わり方だったので、『サイキック青年団』の話をすることは、芸能界でタブー視されていました。でも、僕は芸能界の人間ではないし、ラジオのルーツが『サイキック青年団』だったので、何とか復活させたかった。お二人の間にあって、10年間、機が熟するのを待った。僕の代理人業務の集大成ですね。弁護士業務では許されない双方代理ですが。

辻村 最近は、番組で京都カルチャー路線を進めているようですね。



2019年 北野誠さん、竹内義和さんと10年ぶりの『サイキック青年団』

角田 京都は狭い街なので、ブラブラしていると素敵な人生の先輩に巡り合える。国際日本文化研究センター所長の井上章一先生、1970年代に京大西部講堂で伝説のライブ『MOJO WEST』をプロデュースしていた絵師の木村英輝先生、雑誌『Meets』で30年以上連載されている酒場ライターのパッキー井上さん、小説『ジュリーの世界』で京都本大賞を受賞した作家の増山実さんなど京都にゆかりのある人から、昔の京都の話を聴くのは楽しいですよ。

松尾 改めて角田さんにとってラジオの魅力は何ですか？

角田 ラジオは、パーソナリティという字義通り、パーソナルなものですよね。パーソナリティにとっても、リスナーにとっても。僕は、『サイキック青年団』終了の報を聴き、居ても立っても居られなくなり、それまで何の面識もなかった誠さんと竹内さんにラジオを聴いていた20年の思い入れを綴ったお手紙を書いて付き合いが始まった。僕が昨年の夏に上梓した『ラジオと憲

法』も、もともと労働新聞で連載していたエッセイをまとめたものですが、『オールナイトニッポンR』のハガキ職人だった大学生が労働新聞に就職して連載を依頼してくれた。ラジオはパーソナリティとリスナーが共謀して人格的接触を図れる媒体なんです。

辻村 表現の自由度が高い、というのも大きな魅力ですね。

角田 テレビは法定的見解を話すにしても、結論しか話す時間がない。ラジオは丁寧に思考の過程を喋れるし、わからんことをわからんと言え。裁判のことで、他人が担当している事件に知ったかぶりして手をつっこむべきじゃないというのが僕の考えです。ましてや、新型コロナのことやロシアとウクライナの戦争のことなんて、僕には何の見識もない。それなのに、テレビに出るとそういう話も振られる。学生時代、わからない問題を当てられないように先生と目を合わせないようにしていたでしょ。そんな感じで司会者と視線を合わせないようにしていると、落ちこぼれていた高校時代を思い出

す…それが僕にとってのテレビで、その心理の過程を詳らかに話せるのがラジオですね。

辻村 テレビはなんとなく見栄えとして弁護士が1人いるほうがいいというような、いわば無個性な出方を求められているのでしょうか。

角田 この前も、回転寿司での迷惑行為について法解説をしてくれという依頼があるテレビ番組からありました。本当は予定が空いていたのに「期日が入っている」と嘘をついて断りました。今の時代、SNSで迷惑行為の動画が拡散されるのは防ぎようがないと思いますが、ネットの尻馬に乗って問題視する体で拡散に寄与するテレビの安易さが一番問題だと思うんですよね。僕が一番言いたいのはそういうことなのに、そんなことを言っても編集されちゃうだろうし、スタジオに入っちゃうと同調圧力に屈して「けしからん」「業務妨害が云々」とか言い出してしまう可能性もある。

辻村 正直ですね（笑）。テレビ出演が仕事に役立つことはないんですか？

角田 知ってもらえる、というのはメリットですよ。

辻村 安心感がありますからね。

角田 刑事事件で被害者と示談する時に、テレビを見て知ってくれていたのが警戒を解いてもらい示談がスムーズにできたことが何度かあります。顧問契約のきっかけになることもありますし。今田耕司さんの番組で、沢尻エリカさんが薬物事件で逮捕された時、他の出演者が「芸能人が薬物事件を起こしたら一発アウトで永久追放すべき」と言ったので、「そういうことをテレビで言うから一般の依存症の人も治療や自助グループに繋がる機会を失う」と反論すると、今田さんも賛同してくれて。その番組がYouTubeにアップされると依存症で苦しんでいる人たちの間で話題になり、リカバリーカルチャーを日本で定着させようとしている高知東生さんと知り合うきっかけになりました。

「ラジオと憲法」の出版

辻村 次に、出版の話伺います。昨年夏に初の著書となる『ラジオと憲法』をご出版されましたけれど

も、『ラジオと憲法』と題した意図はなんでしょうか。先ほど角田さんにとってラジオは自由に話せる場だという面で魅力があるとお聞きしました。表現の自由がラジオの本質だという意味を込めたのかなとか、ラジオを愛聴して育った角田さんにとってラジオは自分の人格の中核をなす基本法というような意味で、ラジオと憲法を結びつけたのかとか、いろいろ考えていたのですが。

角田 そういうことにしましょう(笑)。そうです。僕の根本規範です(笑)。内容は帯の言葉を借りると、「元漫才師の弁護士が出会った芸人、作家、歌手、女優、裁判官にプロレスラー。大スターから市井の奇人まで。ラジオが引き寄せた奇跡の邂逅を描く人間山脈」ということになります。辻村先生のおっしゃるとおり、憲法のもともとの精神も行間に滲ませたつもりです。

辻村 本では、大阪のテレビは「政教分離」ならぬ「政笑分離」が必要だと主張されていますね。

角田 今の大阪のメディアは吉本一強。例えば、『探偵ナイトスクープ』も、昔は局長が上岡龍太郎さんで、探偵に越前屋俵太さん、立原啓裕さ

ん、槍魔栗三助(現・生瀬勝久)さん、嘉門達夫さん、北野誠さんらがいって非吉本の番組だったのが、今や吉本芸人ばかり。かつての大阪は、中島らもさんのような人もいて、たしかに非吉本文化がありましたが、今やその土壌が失われている。多様性を失った「笑い」が為政者と結びつくことによるプロパガンダを僕は警戒しています。

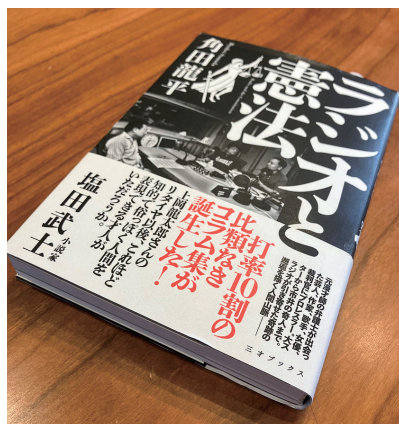
子どもとの時間

辻村 もともと大阪弁護士会所属でしたが、京都に登録換えされましたね。これはどういった理由からですか。

角田 独立後、司法書士の妻と2人で西天満で事務所をしていて、自宅のある京都から淀屋橋まで通っていたんですが、2017年に娘が生まれて妻が通える状況ではなくなりました。妻にも仕事を続けられる状況を確認したいし、なにより家庭生活を大事にしたいと思い、自宅と事務所と保育園を京都市左京区で固めました。

辻村 家族との時間は増えましたか。

角田 そうですね。司法修習の終わ



『ラジオと憲法』(三オブックス)



インタビューと(左から、辻村・角田さん・松尾)

りに、刑事裁判教官からの嘘の言葉で「裁判官、検察官、弁護士の代わりはいくらでもいる。でも、君たちの家族にとって、君たちの代わりはいない。だから、健康に気をつけてください」と言われたのが印象に残っていて。正直言うと、娘が生まれてからはラジオにもそんなに興味はないんです。ただ、ラジオで話すために映画を観たり本を読んだりすることが、娘との「ごっこ遊び」のバリエーションを充実させると思っていますね。

弁護士・弁護士会にとってのメディアとの付き合い方

辻村 弁護士とか弁護士会がメディアをどう使ってどう戦略を立てていくかということについてお聞きしたいと思います。角田さんは漫才師の経歴があってメディア出演につながっていると思いますけれども、僕らみたいな一般の弁護士が露出を増やしたり売り込もうとしたときに、どういうことが必要になってくるのでしょうか。マスメディアでもYouTubeでもいいんですが、自分を世間に売っていくときに何に注意したらいいのでしょうか。

角田 メディアもSNSも怖いのは、人格が可視化されることなんですよ。ラジオだと人格の歪みがおかしみになって味になるんです。弁護士が業務の宣伝目的でやるなら気を付けた方が良いでしょうね。あと、SNSやYouTubeは中毒性があるし、「悪名は無名に勝る」側面もある。「いいね！」や再生数に振りまわされると、過激な方向に走って自分を



インタビュー風景

見失ってしまう。チャップリンの『モダンタイムス』で、チャップリンが機械に巻き込まれるシーンがあります。あれは機械文明に人間性が奪われることを描いていると思うんですが、今はスマホとSNSに人間性が奪われる時代です。例えば、テレビに出てリベラルなことを言った時にSNSでエゴサーチすると、十中八九誹謗中傷が書き込まれていますが、気にせずやり過ごしています。匿名サイトで誹謗中傷して特定された人の相談なんか聴くと、相手に対して特段の執着もないのに、鬱憤晴らしの軽い気持ちで書き込んでいる場合が多いですから。

辻村 大阪弁護士会では、市民に弁護士を身近に感じてもらうということで『となりの弁さん』という番組をやっているんですが、ラジオというメディアのよさを生かしてこれから弁護士会として広報を打っていくには、どうしたらいいのでしょうか。

角田 僕の番組は番組スポンサーが付いているので、むしろ自分の宣伝をしてはいけないという意識でやっています。僕の中でラジオの定義は「人生に必要なことを教えてくれ

るもの」ですから、人生に役立たない話ばかりしている。逆に弁護士会がラジオをやる以上、「人生に必要なことを教える」ものじゃないといけない。身近さよりも、専門性の高い内容の方が良いと思います。

辻村 広報の切り口として、興味を持ってもらいたいあまりに大阪らしさを出して演出していく路線もありますが、意図が見え透いてしまうと興醒めするので注意が必要かもしれませんね。最後に、大阪弁護士会の対内広報についてご意見はありますか。

角田 弁護士会の会務を一切やってこなかった僕が言うのは誠に烏滸がましいですが、おそらく僕と同じように会務よりも娘との「ごっこ遊び」を優先されている会員もいらっしゃると思うんですよね。そういう人も納得できるお金の使い方をしないといけないのではないのでしょうか。

2023年(令和5年)2月14日(火)

【インタビュー：辻村 幸宏
松尾研太郎】